

「人のためになる仕事を」

市内小中校 医療センターが 出前授業



DMAI隊長の津吉さん（中央）から専用救急車両の説明も行われた出前授業
田尻小

柏崎総合医療センター

（相田浩院長）の医師による出前授業が本年度も市内小中学校で進められている。このうち、田尻小（三宮）二行校長の6年生68人を対象に、津吉秀樹・整形外科部長（57）は自身の体験を踏まえ「自分の進む道を選ぶとき、人のためになる仕事、社会の根幹を支える仕事を考えてほしい」と呼び掛けた。

出前授業は、子どもたちから地域医療に興味を持ってもらおうきつかけ作りを目指し、一昨年から始まり3年目。本年度は小学校10校、中学校3校で病院の薬類、魅力、働きがいなどを直接語る。講師は津吉さんのほか、医師2人、田尻小6年生には19日に行われた。

津吉さんは整形外科医のほか、柏崎DMAI（災害派遣医療チーム）隊長、フライトドクター。今夏の東京五輪2020の聖火リレーランナーも務めた。この日のテーマは「医師の仕事、病院の仕事」。2007年の中越沖地震の経験から、12年に柏崎DMAIを結成させた。当時のことを「助けられるだけではないのか、助ける側になりたかった」と振り返った。18

年に北海道胆振東部地震で初出勤し、「よさやく中越沖地震で助けられたことへの恩返しができた」と述べた。医療にはさまざまな職種があることを説明し、「これも大事な仕事。多職種チームワークが必要だ」と語った。「医師は田舎でも都会でも、世界でもどこでも活躍できる。たくさん病んでいる人を助けてあげてほしい」と呼び掛けた。

授業終了後、DMAI救急車両の見学などもあった。富塚西里さんは「災害現場で命を最優先にするDMAIを初めて知った。『命を救ってもらうだけではなくて救う側になりたい』という言葉が特に心に残った」。高橋湊若は「今日の話聞いて、医師に興味を持った。医師がいのおかげでこのくらいの人助かるか、どんな仕事かなどが分かった」と話した。津吉さんは「新型コロナウイルス禍に限らず社会は変化していくが、医療だけでなく人のためになる仕事。『社会の根幹を支える仕事』は社会の変化に負けない。『これが自分』と胸を張れる未来を選び、自分に自信を持って進んでほしい」と期待を寄せた。